

経営比較分析表／団体全体（令和4年度決算）

神奈川県 横浜市

【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	362,000	大規模	1	105,895
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	82.9	68	255,000	自治体職員	

グラフ凡例

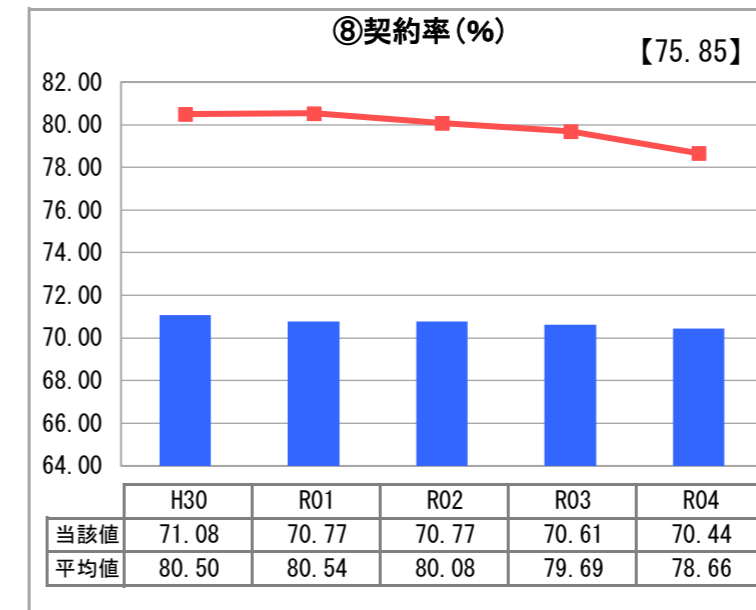
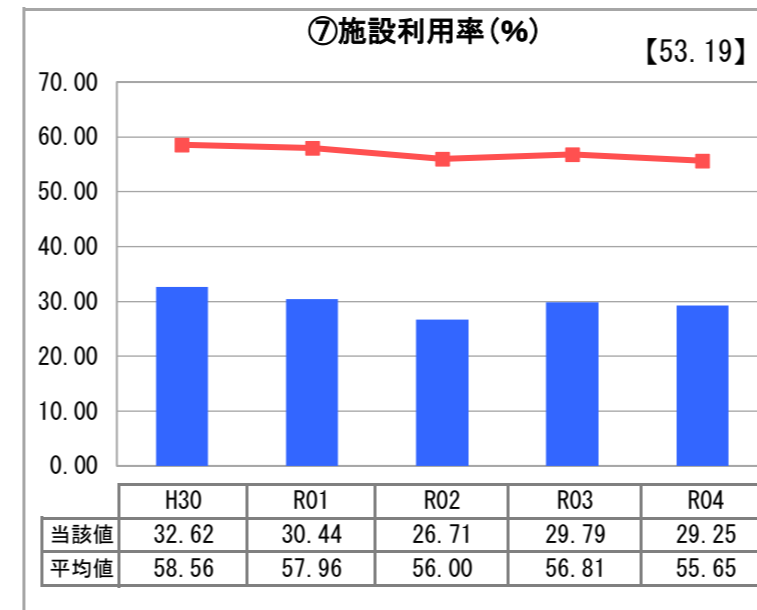
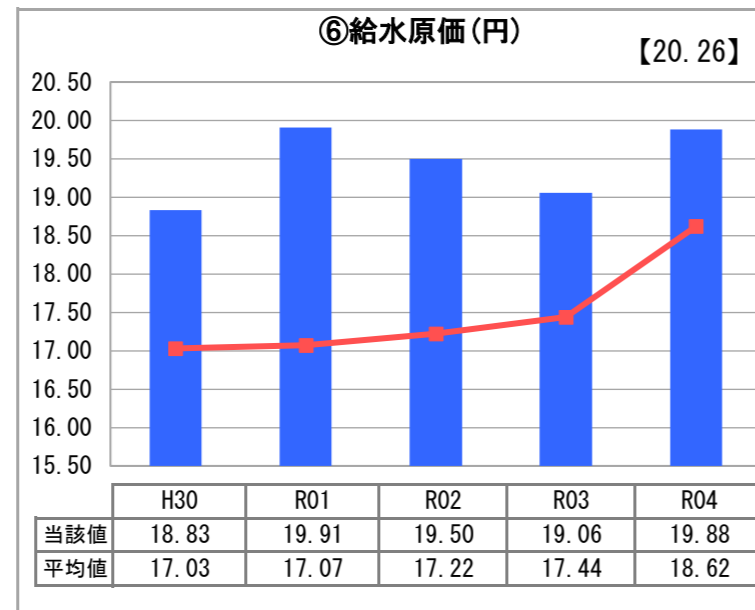
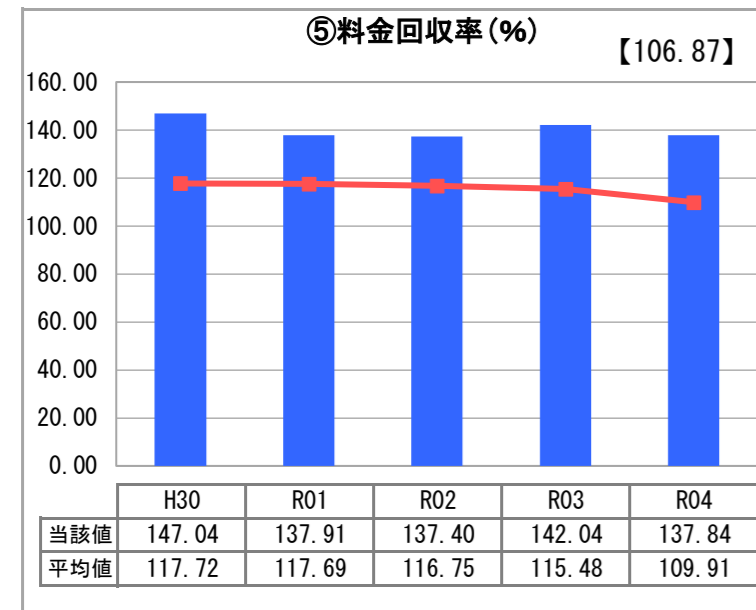
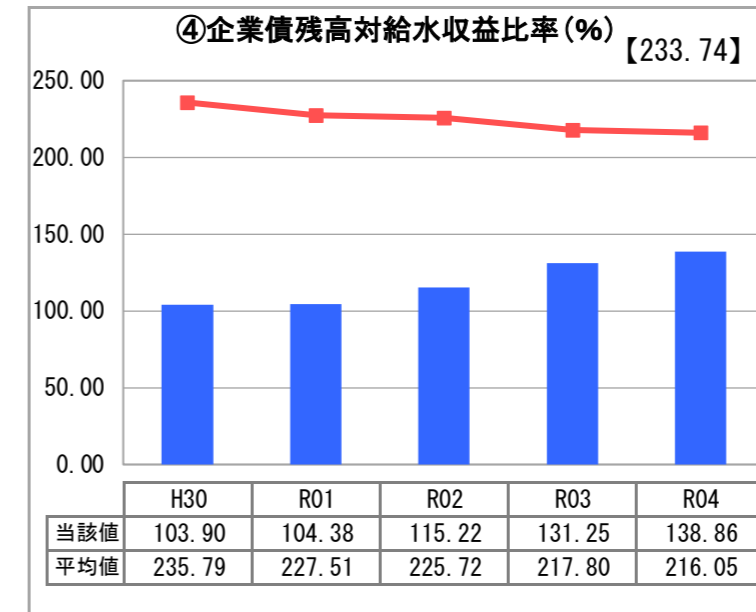
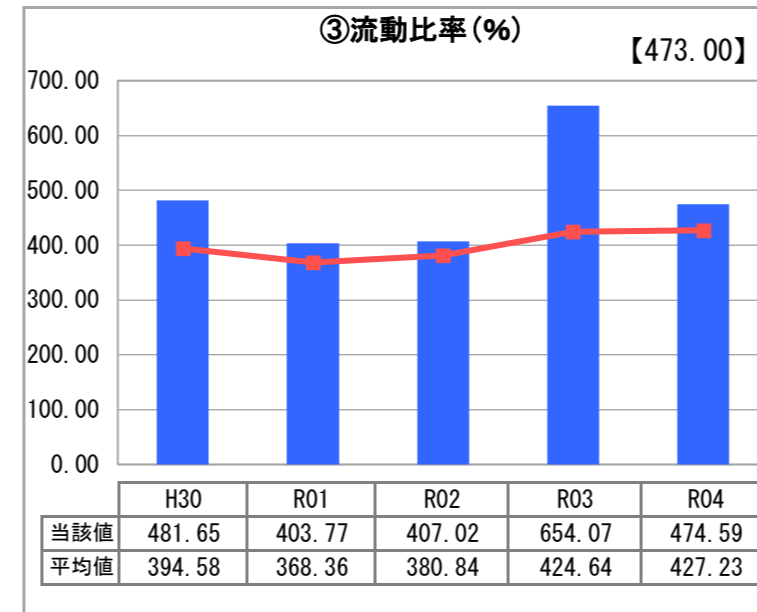
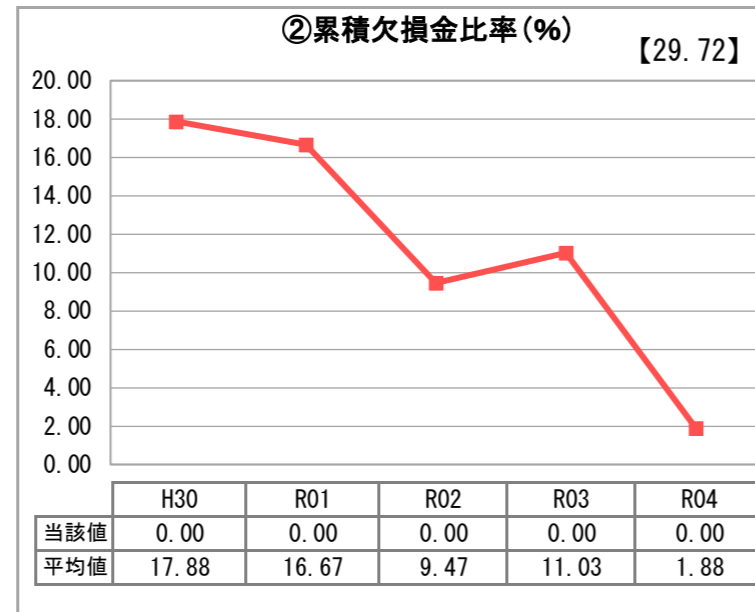
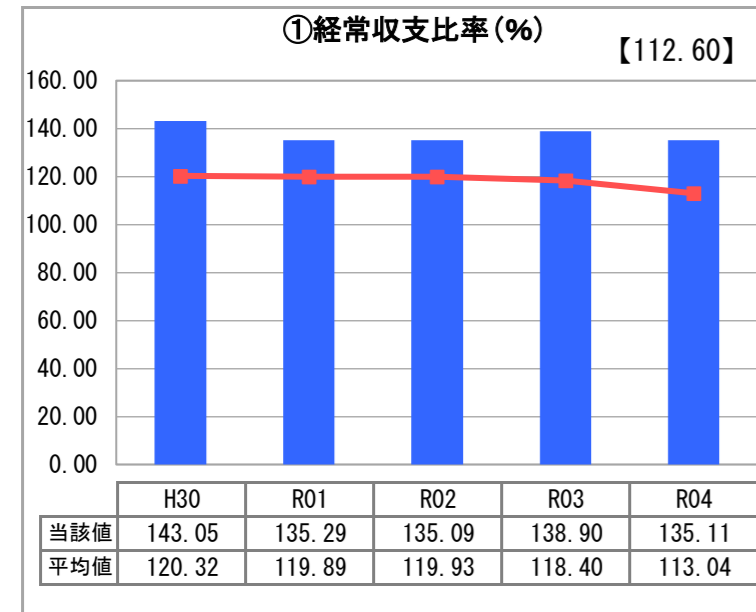
- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- [] 令和4年度全国平均

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和4年度決算における経営成績について、経営の健全性を示す経常収支比率は、電力料金の高騰などによる負担金の増や、施設更新に伴う供用廃止資産の除却費の増等により前年度比3.79ポイントの減の135.11パーセントとなりました。また、同様に料金水準の妥当性を示す料金回収率も前年度比4.2ポイント減の137.84パーセントとなりました。

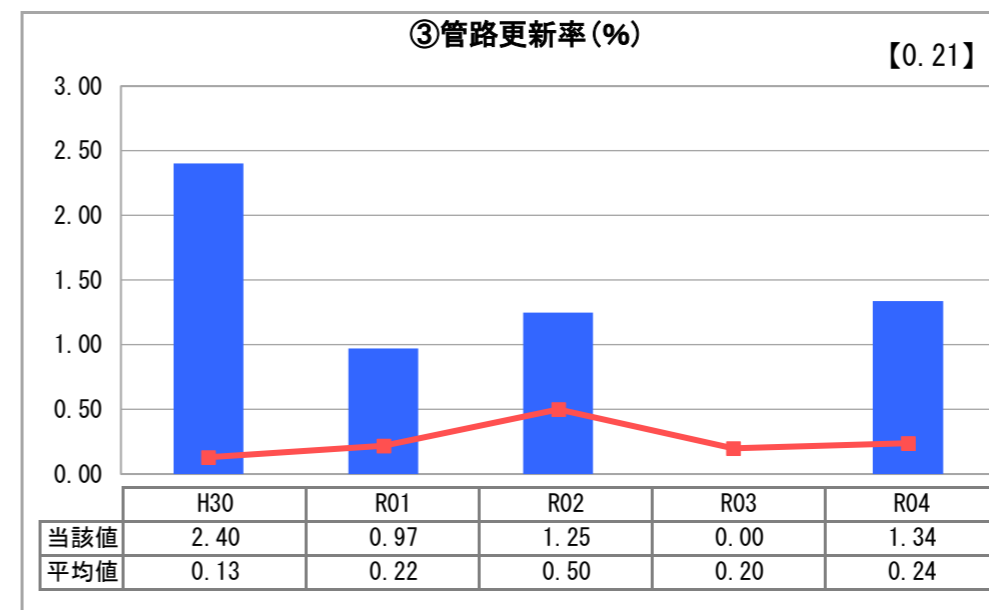
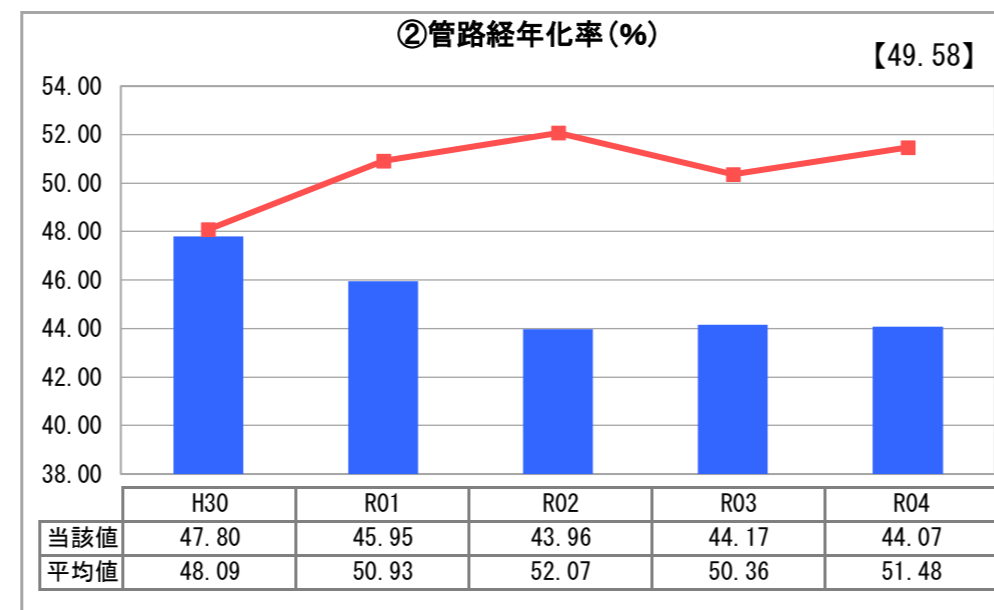
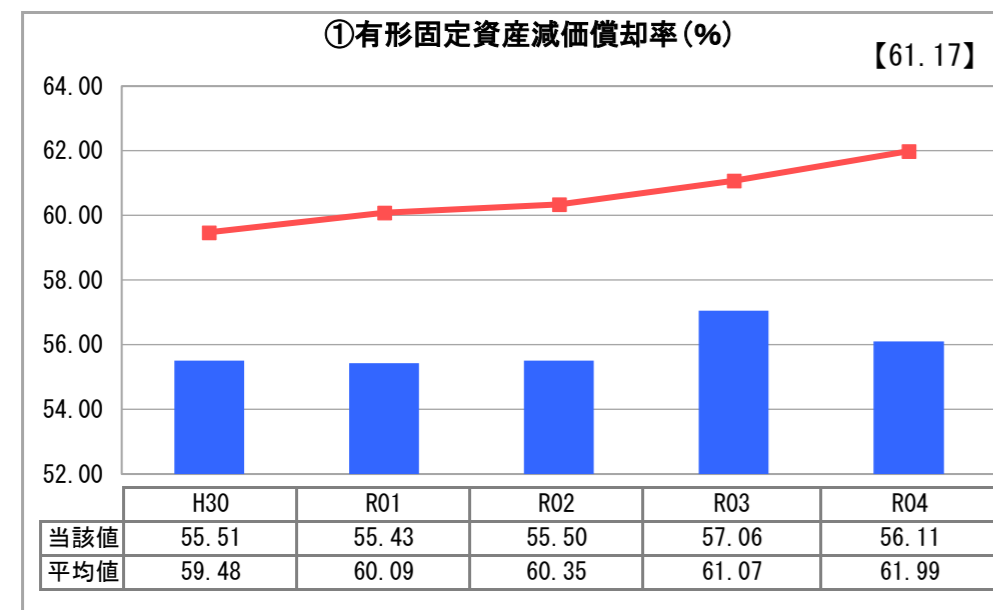
1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況について

償却対象資産の減価償却の状況を示す有形固定資産減価償却率は前年度比0.95ポイント減の56.11パーセントとなっております。法定年数を経過した管路延長の割合を示す管路経年化率も0.1ポイント減の44.07パーセントとなっており、施設及び管路の更新期を迎えているといえます。現在施工中の基幹的送水管路の更新工事は工期が令和12年度までと長く、単年度の更新率の向上となりませんが、計画的に施設、老朽管の更新を進めています。

2. 老朽化の状況



全体総括

経営の健全性効率性に関する指標が示すとおり、現在の経営状況は概ね良好といえます。しかしながら、施設、管路の老朽化、本市及び県内の水道事業の再構築等に対応するため、大規模な施設整備が必要となることが予測されるため、適切な企業債の活用、国庫補助金等の更新事業費の財源確保、事業の効率化を進め、将来にわたって安定給水ができるよう、工業用水事業の基盤強化を図っていきます。